

## 令和5年度 第3回 諫早市社会教育委員会議 議事録

日 時： 令和5年12月21日（木） 15：00～16：30

場 所： 諫早市役所 8-1会議室

### 出席者：【社会教育委員】

平山仁委員、池田雅英委員、石丸民世委員、平古場信一委員  
日野涼子委員、高戸幸恵委員、西川亨委員  
※欠席委員：松山綾委員、菅原良子委員

### 【事務局】

石部邦昭（教育長）、竹島健吾（生涯学習課長）、佐藤亨（同課長  
補佐）山下美喜夫（同参事補・指導主事）、麻生春奈（同主任）

議 題：（1）今期社会教育委員会議のテーマの検討

（2）その他

- ①諫早市ホームページ「社会教育委員」のページ（案）について
- ②子どもでつながる地域づくりフォーラムについて
- ③第65回全国社会教育研究大会宮崎大会の報告について

（議長）

今回の主な議題につきましては、先にご連絡を差し上げた通りですけれども、今期の社会教育委員のテーマの検討ということです。皆様、少し思い出していただけますでしょうか？前回、二つのグループにわかれて話をしていただきました。その話をしていたことが、皆様の方にあります資料の中に議事録として残っております。

これらを基にして今日は特に地域社会・学校・家庭、これらが連携して地域作りをやっていく上で、社会教育のあり方を考えていく中で、それぞれ皆様が関係している団体等の中で新たに取り組んでいく、あるいはこれまでやってきた活動が、コロナも明けて、変わってきている部分もあるのではないかと思います。その地域・家庭・学

校と一緒に取り組もうとしている中で感じていることや、取り組もうとしていることを含めまして、いろんな気付きなどが出てくるのではないかと考えております。

そこで今回は皆さんと一緒にテーマを考えていく上で、現在それぞれが取り組まれている活動についてお話をうかがいながら、それらをまとめて今期のテーマを決めていきたいと思っています。

なお、私の方で、少し作らしていただきましたものもありますが、これはまたこの後で少し説明をさせていただきたいと思います。

(委員)

4月から小野中学校で校長を務めさせていただいております。前任の校長先生がご退職ということで、経験がたくさんあって社会教育の大ベテランですし、いろんな取り組みをされてきているんですけど、私は新米校長でありまして1年も経っておらず毎日あくせくしながら学校を運用しているのですが、前任の先生から引きついでこと、やはり小野地区は地域と家庭と学校との連携ということは、もう比較的以前よりある地域でございます。

自分が心がけていることは、できるだけ地域の行事に参加することです。中学校の近くには公民館がございまして、いろんな催し事や諸会議もあるんですけど、校長としてできるだけ参加をして、そこで気づいたこととか、なるべく早く学校でできることを考えていこうという努力をして参りました。

いくつか例を申しますと、これは前任の校長先生がされてきたことを継続してきたことでもあるんですけど、例えば、つい先日に小野地区の公民館の祭や文化祭がありまして、そこに高齢者講座が抱き合わせで開催されていたのですが、そこに小野中学生が、高齢者向けに読み語りを、2グループ2人ずつ計4人で行いました。これはもう少しで3年目になりそうなんですけど、コロナの中でもずっとしてきたことで、今年も開催するとやはり非常に喜んでもらいました。子どもたちにも達成感というか充実したものが残り、非常に良かったなと思いました。それと合わせて、そのときに自主グループの発表会、展示物があるということを聞いていたんですが、これは公民館の方の集まりの中で4月か5月に協議があってそのときに私の方から、逆に提案をさせていただいていたんです。公民館でそういうものがあるのであれば、ぜひ中学生の美術だとか作品も一緒に飾らせてもらえないか依頼したところ、ちょうどその1週間に開催された展示会の中で、美術作品、国語科の作品、そして家庭科の作品を

展示させていただきました。そうすると展示をする中で、生徒達のおじいちゃんやおばあちゃんとかが、うちの孫の作品があるととても喜んでいただいて、当然子ども達も展示してもらえたことを喜んでおりました。そういう小さなところから、できるだけ地域との繋がりを作っていきたいなということで考えています。

他の学校でもたくさんされているところはあると思うんですが、ちょっとしたきっかけの中から、保護者なり地域の方々に学校とうまく繋がるきっかけができればいいなというふうに思いながら過ごしています。

(議長)

学校と公民館が連携して地域作りをしていく上で、公民館講座という中学生の活躍の場があったということですね。このように皆様が所属するあるいは関わっている団体の中で、新しい動きが始まっているとか、連携して動き出したというような事例があったら教えていただければと思います。

(委員)

私が今活動しています図書ボランティア「心のたね」ですが、今度交流会を行おうと思って先日各学校に手紙を配布しました。早速、一つの団体から参加したいと返事をいただいて、とても嬉しく思ったところです。

今回、コロナで休止していた交流会の活動が再開したということで、皆さんの現状を参加した方で共有をして、今の課題をみんなで探して、どうしたらいいかっていうまで持っていければベストかなと思って、今内容を考えているところです。

少し話を聞いてみたら、図書ボランティアには現役の保護者さんと、地域の方とOBの方が各学校で団体として所属して活動されているんですけど、現役の保護者さんがもうほとんどいらっしゃらない。規模の大きな真津山小や御館山小とか、そういう学校では現役の方もいらっしゃいますが、小規模校となると、ほとんどがOBや地域の方々が対応せざるを得ない状況になっています。そうすると現役のメンバーしか代表になれないという縛りがあるので、跡を継いでくださる方がいなくなるというのが現状なので、今そこをちょっと考えていかなきゃいけないという話をしております。21年目に入りましたが、なくすわけにはいかない。子ども達のためには、やらなきゃいけない活動だと思っています。

(議長)

今のPTAの現状も結構厳しいよっていうお話でしょうか。

(委員)

同じだと思います。でも去年伺っていたんですけど、PTAは参加したい人が参加するというような形に変えるようにしてきていると聞いています。

私もOBなんですけど、来年、もしかしたらまた代表をしなくちゃいけないのではないかという気がしています。私は全然いいのですが、やっぱり決まりみたいなものがあるって、ちょっと悩んでいます。

(議長)

校長会の中にはPTA担当の校長先生がいらっしゃいますよね。今の現状みたいなお話として何か上がっていますか。

(委員)

協議はしていないのですが、校長会の中にも同じような話があったかと思います。先ほどおっしゃられたように、やりたい方が手を挙げてっていうところも確かにございますが、それは人数が多いところは成り立つのですが、人数の少ない学校では、それをやると、なかなか手を上げられる方が少ないのではないかと思います。

(議長)

諫早市のPTAの現状としても他県や他市に関わらず、もう曲がり角に来ている。役員の後継者問題は現状厳しいところがあるという、学校教育に関わってらっしゃる方としての意見であるわけですね。

家庭教育、そしてPTAのこともどうしていくのかということも、テーマとして考えていかなければいけないことなのかもしれません。連携をしていくにも、家庭教育を進める上でPTAが弱体化というか、団体としてなくなってしまうというのは、ちょっとそこを一つ残しておきたいと思います。

(議長)

今関わっておられるスポーツ少年団なんかで、新しい空気といいますか、変わってきたと感じるところではありますか。

(委員)

子ども達に関わってきた中でコロナが明けて、今年の10月に久しぶりに相撲大会をやったんですけども、間違いばかりやってしまいました。幼児には参加賞を渡す予定だったんですけども、試合が終わった後に、参加賞が本部席にまだ残ったままでしたので、渡すのを忘れてしまっていたことが後になってわかりました。また、表彰の時に賞状を渡したのですが、終了後の後片付けの段階になってトロフィーやメダルをやるのを忘れていたことがわかって、後日地区の役員の方達に渡してもらったということがありました。今までは相撲という競技だけで男性の方に主体として役員になってもらったりしていたんですが、今後は女性の方にも副審など役員を担ってもらおうといったそういうやり方に変えていくべきじゃなかろうかというような意見も出ています。また、終わった後には役員で反省会をしたんですが、もっと人数を増やすべきとか、もう少し変えた方がいい点などの様々な意見が出ましたので、次回の開催に向けて繋げていきたいと考えています。

それと、健全育成会で子どもたちのキャンプをしているんですが、これまでは小学4年生以上ということでやっていたんですけど、今年は人数が減ったもんですから、保護者の方からの要望で低学年でも参加できるようにしたところ、終わった後のアンケートで来年も参加したいと言われまして、そうだ、こういう保護者の方たちを役員に引っ張り込むのができるのではないかと思います。

これまでは、スポーツ少年団の中の役員だけでやっていましたが、やはり地域の人たちに出てきてもらえるような、そういう仕組みをつくっていかなくてはいけないと思いました。いつまでもこじんまりとして、自分たちだけでやるんじゃなくて、地域の人たちを引っ張り込めるようなやり方に来年から変えていかなければいけないかなと思っています。

(議長)

コロナがようやく明けて、うまく段取りがいかなかった面もあったようですが、まずそれ以外にもやり方を変えていくときにきているのかなといったご意見ですね。ありがとうございます。

(委員)

子ども会育成連合会では、6年生をはじめ、かわいい1年生達がどんどん入ってきてというのが理想なんですけど、先日モグラ打ちの行事を手伝ったのですが、子ども達は総勢17人ぐらいでとても盛り上がったんですけど、健全育成会の方だったり地域のお手伝いの方たちは来るんですけど、もうちょっと盛り上がるためには、もうすこし仕掛けを工夫していかないといけないかなと思いました。伝統を伝えていきたいというのと受け継いでいってもらいたいという気持ちはあるんですけど、やはりだんだん若年化というか、低学年の保護者さんたちとかは結構積極的には関わってくださるんですけども、その先がやっぱりちょっと抜けてしまったり、それぞれの道に行ったりとかするので、年齢層が変わってきているという状況になっています。

子ども会で年齢層が変わってきているという点なんですけど、いろんなところにお邪魔させてもらって感じるものがあって、西諫早小学校の通学合宿を見学させてもらったときに、大学生がとても活動的に子ども達と関わっていて、手伝ってくれている学生たちも育っているんだなっていうのを感じました。やっぱり私達が目指すのはそういうところで、地域を担っている子たちに、学生さんたちが関わって達成していくのだろうと思います。諫早はボランティアの方々がたくさんいらっしゃるのもっと仕掛けたり、情報発信したりしていくことがこれからの課題なんだろうと思います。

(議長)

ボランティアをしている子、しようとしている子ども達がいる。それをどう巻き込んでいくのかっていうことも課題ということですね。

(委員)

うちの地域では、小学校のいろんな関わりはコロナ禍以前に完全に戻りました。

小学校はある程度できていたので、中学校との関わりをもっと増やしたいと思っておりまして、中学校との関わりに食改の皆さんが、子ども達と一緒にぬっぺ汁をに作って、一緒に食べていただきました。それと合格祈願餅つきを90キロつきます。朝の7時からお湯を沸かして蒸籠で蒸していたら昼頃までかかります。合格祈願餅つきですから、合格したい高校を声に出しながらつくんですけど、子ども達は非常

に喜んでつきます。それでつき終わった後は、腰に手をやって頑張るぞを連呼して終わるんですけども、子ども達が本当に感謝の気持ちでいるのが、はっきりと顔に表れています。

コロナ禍以前、我々は民生児童委員さんと健全育成会とともに、給食会議というのをやっていました。中学校の空き教室で生徒会の役員さんと部長さんと副部長さんあたりと一緒に民生児童委員さんと健全育成会のメンバーで、別に議題は決めていないのですが、給食を食べ和気あいあいとしながら会議をするんです。まだコロナが5類になって日も浅く、一緒に食事して喋るのはまだちょっと早いのかなと思っています。ですからぜひ来年ぐらいは、環境が整えばそういった給食会議をもう1回やってみたいと思っています。

小学校の方は先ほど言われた通学合宿ですね。大学生の協力も4年ぶりでしたので、もう経験がない大学生ばかりでした。ですから、大学生も不安だろうと思って、既に社会人になっている通学合宿を経験した学生OBとの繋がりがあまして、とにかく学生は初めてだから、ちょっと手伝ってくれないかと相談したところ、4泊5日でしたが、ほとんど毎日、夜は来てくれて学生へのアドバイスをさせていただいて活躍してくれたおかげでうまくいきました。

あとキャンプですね、子ども達が65名参加しましたが、これにも大学生が20名参加してくれました。昼に集合して、大学生たちに約1時間半を全部おまかせして、スタンプラリーなどいろいろやってくれて、それからカレーを食べて、夕方からは体育館でキャンドルサービスを1時間以上やりました。これで子ども達も非常に感動したのかなと思っています。

(議長)

コロナ前とほとんど変わらないように元に戻って活動しているということですね。

(委員)

諫早青年会議所では、子ども向けに青少年事業というものを毎年取り組んでいるんですが、コロナ前との比較でいいますと、わんぱく相撲という子ども向けの全国大会まである相撲大会をやっていたんですけど、それはちょっとコロナ以降、現在も復活できてないっていう状況があります。

ただ他の青少年事業はもう普通にやっています。コロナだからとかいう話じゃないんですけども、我々が課題だと思っているのは、地域の団体として日常的に生活をしているわけですけども、子ども達との距離感を感じる場所がありまして、我々メンバーは40歳までという制限があるんですけど、昔は事業の対象にそのメンバーの中の子どもとかに小学生がいる場合が多くて、そういう意味でも、青少年事業は小学生の高学年を対象にすることが多くてその流れで対象にしてきていたんですけど、今のメンバーも私もそうですけど、保育園児や低学年生を子に持つメンバーが多くて、最も対象とするような高学年生の子どもと接する機会がない中で、どういった内容がいいのかなということを考えていくんです。もちろん学校がやってない、我々だからできることを考えて意味があることをやろうとしているんですけど、なかなかその実態をうまくつかめないままにやっているところが課題ではないかと思っています。

それは我々の経験不足みたいなのところもあるとは思いますが、そういったところも地域や学校と連携しながらやっていけたら、もっといいことができるんじゃないかなと思いました。

(議長)

子ども達を対象としている事業を会長さんとしてやってこられて、また、青年会議所はこれまでに長い歴史もお持ちなので、様々な取り組みの中で今の子ども達の現状とといいますか、まさに連携して進める上でのヒントをいただけるのかなと感じています。

(議長)

この後私の方もちょっと話をさせていただいてその後ちょっと休憩に移りたいと思っています。

私自身は今、メディア安全指導員としてはもう現場に行くのをやめておまして、図書ボランティアの方も最近ちょっと忙しく、籍を置いているだけで、去年、今年一度も行っていないという状況であります。

レクリエーション関係とか、そういうところで特に思うところは、今年真津山小学校区の通学合宿に関わらせていただいたんですけども、10年ぶりだったので、もうメンバーがゼロからスタートと全く同じだったっていうところで、通学合宿とは何か

というところから始めなければいけないところが、何となく進んでしまったところもあって、時間っていうのは大きいなというのを特に感じました。

先ほどのご意見にもありましたが、この2・3年の中で以前やっていたことが、頭で覚えていることや記憶に残っているのと実際にやる部分と、私達自身もコロナ禍後3・4年歳をとっているわけで、まさに今回の真津山の通学合宿には私達みんな10年歳をとっているというところによく気がついていないまま通学合宿をやってしまったなというところをちょっと反省しています。ただ、何とかやろうっていう人たちもまだいるので、そのへんを上手に何とかしていけば、これからいろんなことができていくのかなっていう反面、学校の現状をいろいろ聞くと、どの学校も先生の欠員がいるというか、現状数が揃っていないとか、病休が出るともうしばらく復帰できなくて、校長や教頭が授業しているなどの話を聞くと、学校でも地域と一緒に事業をしようというような余裕はないのではないかとこのところも見えてくるんですね。ですから、そこも含めてこの後、私達が1年間かけて皆さんと一緒に今後の社会教育の方向性についてどう考えていくべきかということ、休憩後に詰めていきたいと思います。

(議長)

ここで休憩に入ります。

— 約5分間休憩 —

(議長)

では再開したいと思います。

ちょっと横道にそれますが、皆さんや自治会の役員さんとか、平均年齢はどうですか。結構新しい役員さんがいるところはあるのでしょうか。

(委員)

自治会の役員とかはもう80歳が多いですよ。小船越も80歳。船越でも70から77歳ぐらいの方、ニュータウンはもう若い方はいませんから、2回目の自治長をしないといけないと言っていますね。それだけ異常なまでの高齢化となっています。やっぱりもう65歳まで働かないといけないようなご時世になりましたので、そういった時代の背景もあって、次の世代に若いから役員を変わって欲しいと頼んだら、まだ仕事していますからとなってしまうんです。

(議長)

次の担い手が誰かっていう話になったときにそのあたりが、地域連携にも支障がでてくることになってくるようですね。地域連携といっても私達自身も歳をとっているので、次の世代がいないと繋がっていかない。先に出た意見にもありましたが、男の役割、女の役割みたいなそんな時代じゃもうないですよ。みんなでしていかないといけないという話になってきている中で、連携を進めるとなると難しいなと思いつつ、話をしていきたいというふうに思います。

(議長)

私の方で少し作らせていただいた資料の中で、今期のテーマについて、大体三つぐらいかなと思っている中の一つに、共同して連携していく社会教育のあり方ということの中で先ほどの話の中で出てきたPTAなどの、次の後継者をどうするかという課題は今後の社会教育のあり方として話し合うことではないですけども、現状としてやっぱり共通認識しておくべきと思います。例えば住民基本台帳の平均見れば、大体各町の平均年齢というのは確かにわかるんだと思うんですが、ちなみに私が住んでいる貝津町は、住民の平均年齢はそんなに高くありません。なぜかというとなんかアパートが沢山あるからです。ですから、住民基本台帳の平均年齢と、自治会に加盟している人たちの平均年齢には大きく開きがあって、ソニーのような大企業で働く人たちの近くにあるアパートの人たちは、自治会に入っていない。ですから自治会の平均年齢が高いとなったさっきの話じゃないですけど、何かやろうとするときに人間がいなくなるといふようなことが少し気になっています。

その上で今期のテーマの柱として、資料の中の一番目の、連携した地域づくり社会教育のあり方、2番目が、それを進めていく一つの政策となるのが公民館なので、ここも外せないだろうと思っています。そうすると例えば私達自身が公民館講座を見学に行くとか、実際に本当に見に行くことも必要なかなというふうに思っています。確か7・8年ぐらい前に社会教育委員の皆さんで公民館講座を見に行きましょうということになって、ただ突然見学にと言われても、公民館側も困るし、人数制限によって中に入れるような講座とそうではない講座もあると思うし、実際突然行って講座が開催されているわけじゃないので、事前に調整が必要だと思っています。その公民館の事が二つ目かなと思います。

三つ目に福祉とか防災を挙げましたけど、テーマっていいですかね、少し中身の線引きが難しくなってくるのかなと思っています。

例えば子育てとか子ども福祉部の担当になるのでしょうか、ここら辺の近くで言えばすすく広場を見に行きましょうというところですね。そういうところの関係部署についても皆さんで1回見たり話を聞いたりする機会を設けてもいいのかなと思います。以前、諫早市PTA連合会事務局の事務局長さんに来ていただいて、今の市P連の現状についてお話をさせていただいたことが確かあったと思います。そういったところからの現状を聞くっていうことも可能だと思いますので、公民館の現状だとか、学校の現状だとか、それぞれの課題を抱えているものの、もう少し中身を聞いたりとか、子育て部門とこの話を聞いたりとかもしながら、地域総がかりで取り組む社会教育のあり方みたいなところで、皆さんと意見を出し合っていければいいのかなと考えています。

まとめる前に皆さんから一言ずつまた意見を聞きたいところではあるんですが、もう特に順番は示しませんので、各委員さんから出していただいた課題、あるいは今やろうとしていること、そしてその中で気づいた現状と課題、そしてそれを聞きながら、皆様で考えられたこと。それらを少しまとめていきたいというふうに思います。

#### (委員)

先ほども申しあげましたけれども、できるだけ地域のいろんな会議には出席をさせていただいて、やっぱり二、三回顔合わせて話をしないと続いていけないということを実感していて、11月、12月になってようやく何か実態というか、わかってきた感じはしています。そして、わかってきて、次年度学校の行事と地域の行事がこういうふうに繋がって一緒にできる場所はした方がお互いに助かるなというような構想は少し考えています。ただ、学校現場も小野中学校は比較的、生徒数も少ないので、職員も当然少ないんです。やっぱり授業時数とか1人で受け持つ時間が多くて、空き時間が少なく、そうなったときにいろんな行事を地域と一緒にするならば、教職員ばかりが動くとパンクしてしまうことになります。おそらく校長が地域との連携についてそのまま教職員に伝えても、多分結構抵抗感があると思うんです。ですから、もし地域と一緒にするならば、地域の方々にお手伝いじゃないですけど、地域の方々が動ける部分はしっかり動いてもらわないとなかなか進まないだろうなというのはイメージとして来年に向けて考えています。そこをうまく学校と地域を繋ぐ役割として、

私が積極的に動いているんですけど、でもこれが校長が変わればまた苦痛と捉えてしまうのではないかと思います。自分もそれは前からできるだけないようにしていかないといけないと考えているところです。あるときだけ頑張りすぎて、その後続かなかったら元も子もないので、そこは持続可能なふうにしていくためにはどうすればいいかというように自分だけではなくて、教頭と考えていくとか、他の職員とも一緒に考えていくとか、そういったところを目指していきたいなと考えています。

これまで町内会長や連合会長さんともかなり多くの会でお会いしました。つい先日は婦人会主催のしめ縄作りに私も参加させていただいて、町内会長連合会長さんが講師だったんです。終わった後おにぎりを婦人会の方に作っていただいて、そのこの団らんの中でいろんなことを昔の思い出話だとか聞かせていただいて、そこで何か本当に地域の方に助けられている学校なんだなというのを感じました。学校現場から行ったのは私1人でしたので、そういったことを生の職員が、地域の方の生の声を聞く場があれば、もっともっと地域との繋がりが深まっていくんだろうなというふうに感じました。

それと、自治会長さんからも後継者不足がずっと大変だということを言われていて、やっぱり自治会長さんも会議が多くて、それこそいろんなところに顔を出されて本当忙しいと言っておられたので、学校と地域との会議も少し同じメンバーが多いので、そういったのを少しずつでも合同でできるようにしていけば、お互いに助かるのではないかと感じましたので、その辺は進んでそういった提案をしていきたいなと考えているところです。

(議長)

不登校の問題についてはいかがでしょうか。結構厳しいものがありますか。

(委員)

確かに厳しいです。小野地区でもなかなか教室に入れない子どももいます。

そういったところは地域との連携がどうやってできるかっていうところは、なかなか考えが浮かばないんですけども、街中の学校と周辺地域の学校も変わらない現状があるなと思います。

(議長)

会議の統合という話が出ましたが、皆さんの中には結構たくさん役職をされている方もいるのではないのでしょうか。

(委員)

この前、健全育成会の役員会をしたんですが、これも各地域から役員の成り手が少ないと、なかなか探しきれないというような意見がありましたので、それなら今度行う研修会は、そのグループでそういった役員の成り手が少ない課題とか、よその地域はどんな行事をやっているのかということ、グループにわかれて話を出してもらおうということになり、5・6班にわかれて各地域の健全育成会の役員さんにいろんな協議をしていただきました。諫早市でも一番悩んでいるところが真城校区ですね。非常に役員の成り手が少ないということを訴えられて、そちらはどうしていますかと聞かれましたので、私の地域では役員の成り手が少ないので困っていることは全然ありませんと答えましたら、それは何故ですかと言われましたので、小学校、中学校のPTAの役員さんといろんな行事をした後に反省会を兼ねた慰労会をやるんです。それを年に何回もやりますので顔見知りも多くなります。PTA役員の子どもが卒業したところで狙い撃ちするわけです。酒の席で交流を深めている点は大きいと思います。断られることはまずありません。ですから私の地域の健全育成会の役員は若い世代が多いんです。そのように真城校区の役員さんに伝えると真城はそれが全然ないということでした。地域行事もほとんどやってないし、そういった一緒に飲む機会もないし、それならそこから始めたらどうですかと伝えますと、やってみようというようなことを言われました。そのように他の地域のいろんな方と話をしながら、うまく行っている事例を取り入れるようにしていくといいんじゃないかなと思いました。

(議長)

PTAを支えている役員が他の役員の成り手となる話は本当に大きいですね。

先ほどの意見でありました今のPTA役員の立候補のあり方とか、役員の決め方が違う学校なんかでいくと、次の世代に繋がらなくなってしまうところがあってちょっと心配になってきますね。真津山小学校区なんか今特に悲惨な状況ですから。

(議長)

私が言っているものかわかりませんが、これからPTAの件、あるいはPTAに限らず健全育成会とか、そういう子ども達を取りまく関係組織の統合など少し考えていけないといけないのかもしれないですね。

今年でしたら社会教育研究大会のときに雲仙市から発表があったのが、子ども会と健全育成会組織を統合した形での事例発表がありました。あれが望ましい方向かどうかは別にして、そのような形も考えないといけない時代に来ている。人口も減って子どももいなくなるし、高齢化が進んでいるということですから。そのあたりも次回以降の課題としなければならないのかもしれないですね。そうしないと、子ども会だ、婦人会だ、老人会だと言っている時代じゃないのかもしれないですね。

先ほど意見がでていました少年団とか、生涯スポーツっていいですか、いろんなもう少し枠組みを超えて繋がっていてもいいのかもしれないですね。

(議長)

だんだん時間が迫ってきたんですが、皆様の方から一言ずつお話をいただいて、まとめをしたいのですがよろしいですか。

(委員)

私もPTA時代に何か行事があるたびに、終わってから反省会の飲み会っていうのはとても楽しく感じていました。やっぱり人が集まって同じ気持ちを共有しながら喋るってすごく楽しいなと思っていたので、PTAが地域活動の全てに繋がる最初の機会ではないかと思っています。

(委員)

通学合宿の反省会には大学生も呼んでいたんです。1人の大学生が、これまで西諫早、真津山、御館山小校区の通学合宿に参加してきましたが、自分の卒業した小学校には通学合宿がないと言いました。なるほどその学生は真城小学校出身でした。そして嬉しきことに、「ならば自分が立ち上げたい」と言ったんです。それだけやっぱ気合のある大学生も出てきているのはありがたいことだと思います。

(議長)

児童生徒に限らず、若い世代もその活動の中で一緒に育って行くということで、それはまさに地域が育つということになりますね。

(議長)

では、ちょっとまとめはしませんが、今までの皆さんの話の中でいくつかキーワードが出てきていると思います。それについては事務局でまとめていただき、次回の3月の会議では、また皆様で調べたり、今後の方向性について意見をまとめたりしていただくという形になると思います。

諫早市の社会教育のあり方というのは、コロナによって時代の流れが早くなってきているので、ゆっくり取り組みましようと言っている時代じゃなくなってきているので、できるだけ早く話をまとめていきたいというふうに思っております。

では、議題の1はここで終わりたいと思います。

(議長)

それでは、次に議題の(2)その他に移ります。

①「諫早市ホームページ「社会教育委員」のページ(案)」と、

②「子どもでつながる地域づくりフォーラムの案内」については、事務局より説明をお願いします。

③「第65回全国社会教育研究大会宮崎大会の報告」につきましては、参加していただいた委員からご報告いただけますでしょうか。

(生涯学習課長補佐)

①「諫早市ホームページ「社会教育委員」のページ(案)」を説明。

(生涯学習課参事補)

②「子どもでつながる地域づくりフォーラムの案内」を説明。

(委員)

③「第65回全国社会教育研究大会宮崎大会」出席を報告。

(議長)

ありがとうございました。只今の事務局の説明と委員の報告について、ご意見はありませんか。

— 特になし —

(議長)

それでは、最後に前回第2回会議で皆様にお諮りしていたように、今回第3回会議の議事録署名人を指名します。

— 高戸委員を指名 —

(議長)

以上、社会教育委員会議の本日の議題は全て終了しました。今回の審議で皆様からいただいた内容につきましては、事務局において整理していただき、今後の会議において報告いただきますようお願いいたします。

皆様、活発なご意見とご提案をいただきありがとうございました。

— 終 了 —